



森と海の自然科 活動案内 「活動テーマ：里／川」

2020年7月15日

淀川水系：淀川河口の矢倉海岸、大野川緑陰道路散策

観察河川：神崎川、西島川、淀川、大野川緑陰道路（大野川跡）

今回は、人工とはいえ、大阪市内で唯一「石畳の海岸」が整備されている矢倉海岸へ、のんびり散歩します。

矢倉海岸は大阪市内の野鳥観察ポイントの一つです。大阪湾の中央部で「コンクリートの護岸に囲まれていない波打ち際」が見られる唯一の場所で、河川的环境整備の面からの施策の一例を視察、現地を歩いてみるのが今回の目的です。頑張ったとされる「潮だまり」の現状も見てください。他の見学場所とセットで見学するには不便な立地で、単独で視察を計画せざるを得ないような場所ですが、交通機関の混雑時間帯を避けることが望まれる今のようなタイミングには丁度よいかもしれません。ただし季節的には暑いので熱中症対策に留意ください

大野川緑陰道路はかつて悪臭を放っていたドブ川の大野川を埋め、上部を緑道にしたもので、多様な樹木が植樹されています。これも都市環境整備の一例です。

大野せせらぎの里は大野下水処理場の処理水を更に水質浄化することを目的とする「安定池」を、周囲を含めて公園的に利用しようとするもので、通常は月曜火曜以外は地域に開放されていますが、現在はコロナ対策で閉園。オープン空間の公園が密なの？？ 例年夏には「ホタルの夕べ」が開催されるのですが、この催しも今年は中止。公園再開の予定確認と見学申し込みをしましたが、9月に方針再検討するまで閉園ということでした。今回は園地正門前で眺めるだけ。園内トイレ利用不可です。

< asano >

- | | |
|-------|--|
| 1：日 時 | 2020年7月23日（木） 10時30分 小雨決行 |
| 2：集 合 | 阪神なんば線・出来島駅改札口 非常時には前日夜メールします |
| 3：持ち物 | 弁当、飲み物、雨具、日傘、帽子、双眼鏡ほか観察用具 等
駅前にローソン、ファミマ、業務スーパーあります |
| 4：目的地 | 矢倉海岸緑地公園、（大野せせらぎの里）、大野川緑陰道路 |
| 5：行 程 | 約7km（平坦）
阪神出来島駅集合 ⇒神崎川沿いに西へ500m 水道橋
⇒緑道を南へ400m 大野せせらぎの里（大野下水処理場の安定池）
⇒西へ400m 西島橋を渡って ⇒200m 西島住吉神社
⇒西島川沿いに南下1000m 西島水門
⇒淀川沿いに河口へ1300m 矢倉海岸で休憩・弁当（潮だまり、四阿、トイレあり）
⇒淀川沿いに1300m戻る 西島水門
⇒大野川緑陰道路700m 新淀川公園（休憩・トイレあり）
⇒大野川緑陰道路600m 福稲荷・住吉神社
⇒大野川緑陰道路700m 阪神福駅 解散（14時頃予定） |

以下 参考にネットデータのコピーを添付します

●現地解説板より「大野下水処理場安定池案内」

【安定池とは】安定池は、水中の微生物や水生生物などによる自然の浄化作用を利用して、大野下水処理場の処理水を、さらに安定した水質にするものです。

池の周囲には樹木を植え、「せせらぎ」や遊歩道を設け憩いの場としました。

周囲の施設とともに安定池を大切にしてください。

【浄化した水の再利用】安定池の水は、「ろ過」により仕上げの処理をした後に大野下水処理場の機器などの洗浄や樹木の散水、安定池周囲の「せせらぎ」あるいはこの正門付近に設置している防火用水供給設備の水源として再利用しています。

【資源の再利用と都市環境の保全】安定池の周囲の遊歩道のブロックは、下水汚泥焼却灰を焼成して製造したもので、下水汚泥の再利用を行うものです。

このブロックは多孔質で透水性や保水性に優れていることから、雨水の流出を抑制し、浸水被害の防止や、ヒートアイランドの抑制といった都市環境の保全に効果があります。

●矢倉海岸「矢倉緑地公園」

淀川と神崎川河口にはさまれた矢倉緑地は、昭和9年の第1室戸台風で水没した田畑を埋め立てた土地で、平成9年（1997年）から造成を行い、平成12年（2000年）9月1日にオープンした都市公園です。

市内では珍しくコンクリート護岸のない海水面と接する公園で、自然石を用いた荒磯自然護岸や水に触れ合うことができる潮だまりがあり、通水管を通ってきた小魚が泳いでおり、カニ・フジツボ・フナムシなども見られます。

周辺は、渡り鳥の滞留地になっているので、公園内に設けられた野鳥観察所から、カルガモやユリカモメなどが観察できます。

また、矢倉緑地から眺める夕景は、阪神高速道路湾岸線のシルエットを浮かび上がらせ、西淀川区の新しいシンボルとなっています。

◎施設概要

面積 / 2.4ha（24,000平方メートル）

施設内容 / 荒磯自然護岸、潮だまり、干潟、野鳥観測所、休憩所、芝生自由広場、便所、公園灯（一部太陽電池・風力利用のハイブリッドタイプ）、植栽（クロマツ、アラカシ、スダジイ、ヤブツバキ、ウバメガシ、オオシマザクラ、ハマナス等）約24,500本

◎「矢倉」の由来

海岸の寄洲であった当地を、安永7年（1778年）に京都の矢倉九右衛門が、西島新田の中野清芳とともに開拓した「矢倉新田」によるものです。

●大野川緑陰道路

大野川筋は、神崎川と新淀川とを結ぶ延長約6km、幅員26～31mの川筋で上流より阪北水路、中島大水道、大野川と続き工業地域である西淀川区の中心部を横断して、古くから舟運、かんがい、利水、治水などを中心に、住民にとっては欠かせないものであり、社会のうつり変わりとともに生きてきました。しかしながら、地下水のくみ上げ等による地盤沈下を生じ、数回にわたる風水害に見舞われ、年々河川としての機能が低下し、河川汚濁による悪臭が日増しに激しくなってきました。

そのため、公害対策と環境改善を目的として、昭和45年度～昭和47年度にかけて大野川筋の埋め立て工事が行われました。跡地利用として、緑豊かな散策道路、サイクリング道路とすることが決定されました。

この大野川緑陰道路は、八丁大橋跡から淀の水橋跡間の約3.8kmで、幅員は19m～47mあります。

整備の工事は昭和46年度～昭和54年度にかけて行われました。

この道路には、高木約1万本、低木約12万本の100種類にも及ぶ樹木があり、その中には、30数種類の薬用植物も見られます。樹木への施肥、枝の剪定、虫害防除、雑草の除去、清掃等々、多くの人々の手を経て散歩道として、健康づくりの場として親しまれ、区民のすばらしい憩いの場となっています。